

神秘的山里と苗場湿原

ふうけいきこう  
風景紀行

神秘的山里と  
苗場湿原

北信森林管理署  
(各署の景勝地等を紹介)

「北信署」長野県の最北端に位置する秋山郷は、苗場山と鳥甲山に挟まれた谷あいの山里で、栄村側の五集落（小赤沢、屋敷、上野原、和山、切明）と新潟県津南町側の七集落の総称で、平家の落人伝説が残る秘境の地として知られています。「実（げ）に無人の佳興に入りて命の洗濯する心持ちなり」江戸の文人鈴木牧之が、見聞録「秋山紀行」で秋山郷をこのように紹介しています。

素朴で暖かいもてなしを受けた牧之に、「命の洗濯にもう一度来たい」と言わしめた山里であります。地理的・気候的に厳しく、他地域との交流もままならなかったことから、今なお古き良き生活文化が多く残されており、訪れる人々に感動を与えてくれます。

集落の背後に鎮座する苗場山は、信越県境に跨がるどっしりとした量感ある山です。岩陰のヒカリゴケや、清楚なシラ

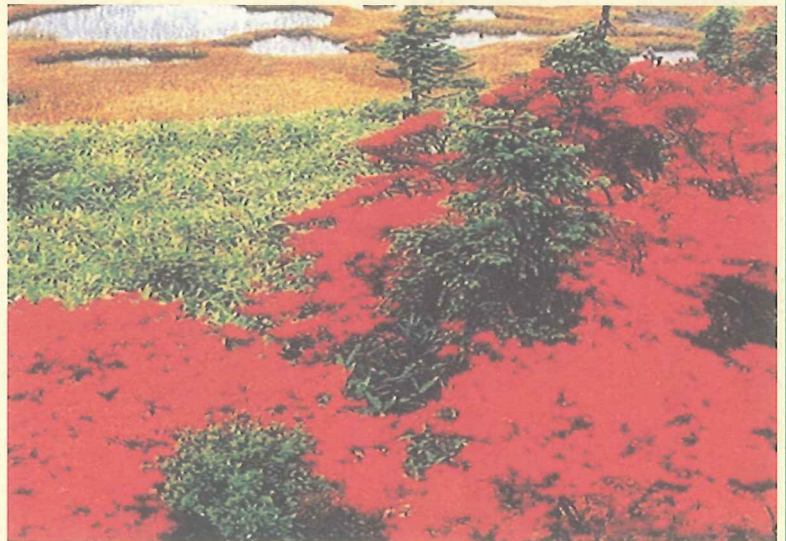
ネアオイなどを眺めながら上りつめた山頂からの眺望は圧巻で、近くに鳥甲、佐武流などが見え、また遠くには妙高や谷川・北アルプスの連峰が望めます。

標高二千mを超える頂上台地には、オオシラビソの原生林に囲まれた六百餘にも及ぶ広大な高層湿原があり、大小無数の池塘（ちとう）が静かに水を湛えています。その池塘には「ミヤマホタルイ」が群生していて、その様はあたかも「苗場」のようです。

その他、湿原一帯には純白のワタスゲを始め、イワイチヨウ、チングルマ、ヒメシヤクナゲなど可憐な高山植物が咲き乱れ、また、秋のベニサラサドウダンの鮮やかな深紅は筆舌です。



ワタスゲが誘う夏の苗場湿原



サラサドウダンが紅葉する秋の苗場湿原

今年度から環境保全と利用者配慮して、湿原内の一部の歩道について、木道整備が始まります。

アクセス方法

上信越道飯山豊田インターから、国道117号を千曲川沿いに40分程度下ると新潟県津南町に着きます。そこから国道405号線を中津川沿いに25分ほど上流に進むと「秋山郷」小赤沢集落に着きます。

苗場登山口（三合目）から、3時間程度で湿原に到着です。